

# タウンミーティング及び若者Webアンケートの結果について

## 1 10年後の宮城を考えるタウンミーティング

## 2 若者Webアンケート

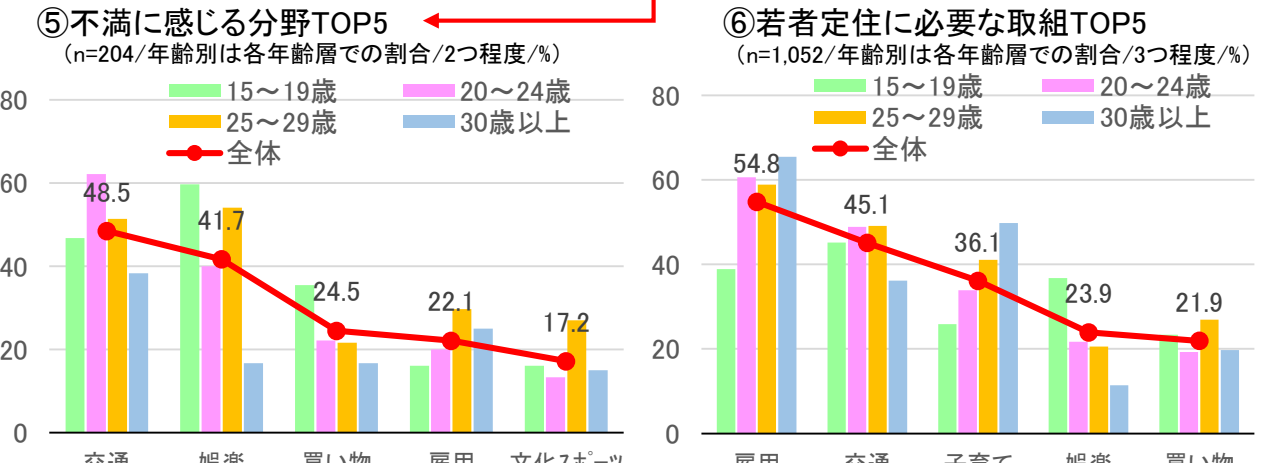
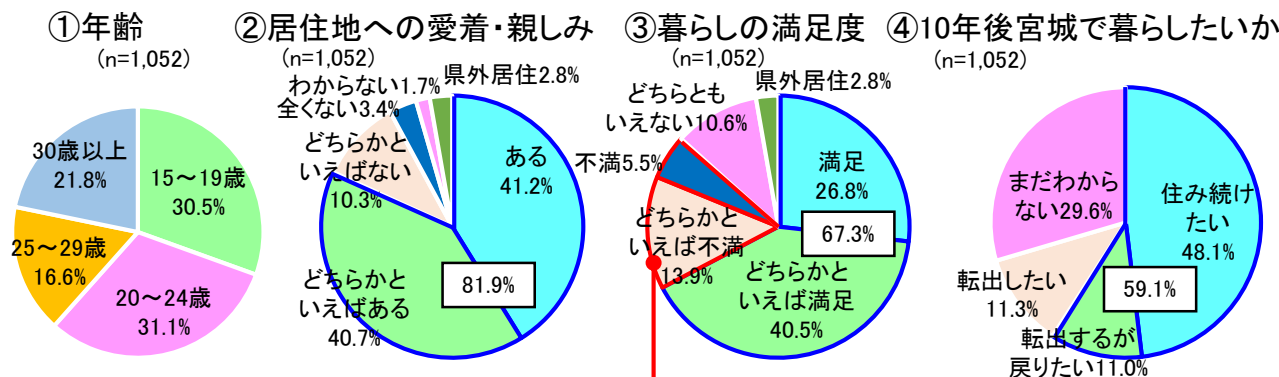
### (1) 実施概要

趣旨	県民と直接意見交換し、次期総合計画の最終年度にあたる令和12年度(2030年度)の宮城の姿を共に考えるため開催				
日程	R2.1.15(水)	1.17(金)	1.28(火)	1.31(金)	2.9(日)
会場	大崎	気仙沼	大河原	石巻	仙台
内容	第1部:計画骨子案の説明 / 第2部:10年後の宮城を考えるワークショップ(第2部は4テーマに添って付箋と模造紙を使用した少人数グループワーク) ①地域産業の発展や雇用の創出 / ②子育て支援や教育の充実 ③安心していきいきと暮らせる地域社会の形成 / ④自然と調和した強靱な県土づくり				
参加状況	第1部説明(人)	第2部ワークショップ(人/グループ)			
	355	130(28)	①経済 39(8)	②子ども 45(10)	③いきいき 32(7)

### (1) 実施概要

趣旨	主に宮城県在住・出身の若者(15~30歳程度)に対し、「宮城県に住み続けたい」と考える要素をインターネットによるアンケートで調査		
日程	R1.10.28(月)~R2.2.29(土)	回答件数	1,052件
回答者属性	性別		職業等
	男性 51.1%	女性 46.0%	無回答 2.9%
質問項目	学生 53.2%	社会人等 46.8%	居住地
	仙台市 50.8%	仙台市以外 49.2%	
居住地への愛着や親しみ / 暮らしの満足度 / 不満分野 / 居住地選択時の重視事項 / 10年後宮城で暮らしたいか / 県外で暮らしたい理由 / 若者定住に必要な取組 / 宮城への想い			

### (2) 回答の分析



▽ 県内の若者の居住地に対する愛着・親しみが高いが、暮らしの満足度は若干下がり、10年後も住み続けたいと考える者は6割弱にとどまる。  
▽ 多くの若者に宮城県に住み続けてもらうために重要なこととして、第一に雇用の充実が挙げられ、総じて「公共交通など生活環境の利便性が確保された地域で、仕事をしながら楽しく暮らしたい」という意見が多い。

### (2) 意見の分析

- ▽ 第1部では、人口減少への対処法や市町村との関係など総論的なもの、教育の充実や公共交通整備など個別分野のものなど計画骨子全般に意見
- ▽ 第2部では、自由な意見交換を通じ、以下の例のように新ビジョンの横断的視点と位置づけた「人づくり」や「地域づくり」に整理できる議論が多数

テーマ	「人づくり」の主な意見	「地域づくり」の主な意見
①経済	商店街や地元企業、一次産業の人手不足が目立つ	若者が地元に残るような産業創出や支援が必要
②子ども	地域のつながりによる子育てや、子どもの主体性を高める教育が大切	子どもの遊び場や体験学習で活用できる地域資源の不足
③いきいき	地域を担う若者が減り、若者と高齢者の世代間交流や活動が少ない	地域の維持に地域交通の確保が必要
④県土	震災の記憶や経験の伝承で、復興の過程や成果を今後活かすべき	田んぼのダム機能など、インフラの多面的機能の発揮が重要